

第1部 中国

1 マクロ経済動向

(1) 経済成長の軌跡

① 全国

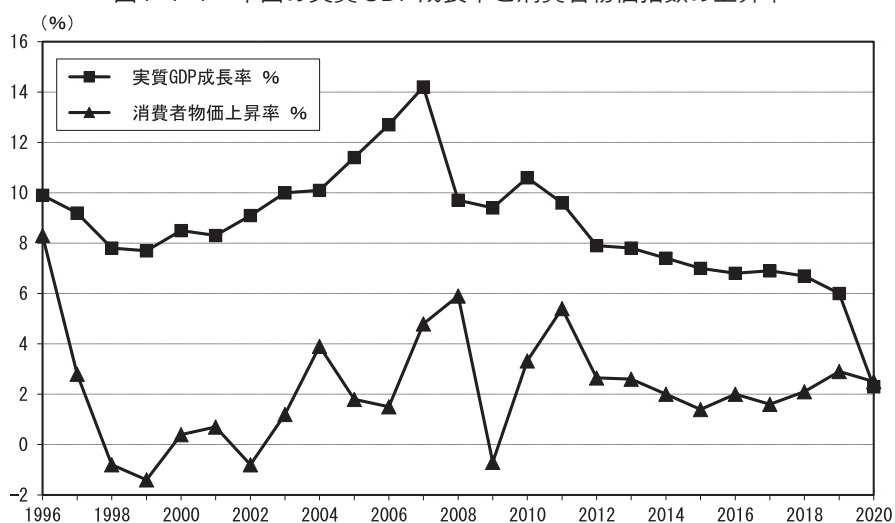
2020年の名目GDPは101兆5986億元に達し、一人当たりGDPは、7万2447元であった。中国経済は新型コロナウイルス感染症拡大により大きな打撃を受け、実質GDP成長率は前年比2.3%となったが、プラス成長を維持できた(図1-1-1)。2020年の実質経済成長率に対するGDP構成要素の寄与をみると、最終消費支出はマイナス0.5%、固定資本形成は2.2%、純輸出は0.7%に相当する(図1-1-2)。2005年～2019年、最終消費は固定資本形成に代わり中国の経済成長の最大の推進力となったが、2020年に新型コロナウイルス感染症により深刻な影響を受け、GDP成長率への寄与度はマイナスとなった。

2020年の実質GDP成長率を四半期別にみると、第1四半期の実質GDP成長率は、前年同期比マイナス6.8%、第2四半期は同3.2%、第3四半期は同4.9%で、第4四半期は同6.5%であることが示された¹。名目GDPに占める第一次産業の割合は7.7%、第二次産業の割合は37.8%、第三次産業の割合は54.5%であり、第二次産業の割合が前年より減少しているものの、第三次産業の比率は上昇し続けている。消費者物価指数(CPI)は前年比2.5%の上昇を示しており、昨年度より0.4ポイント下降した。

② 東北地域

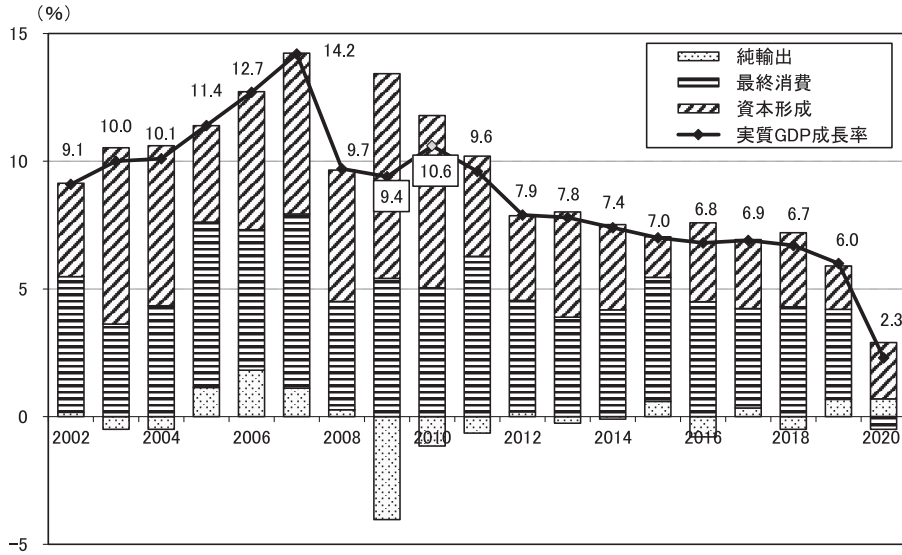
2020年遼寧省、黒龍江省、内モンゴル自治区の実質域内総生産経済成長率は依然として全国

図1-1-1 中国の実質GDP成長率と消費者物価指数の上昇率



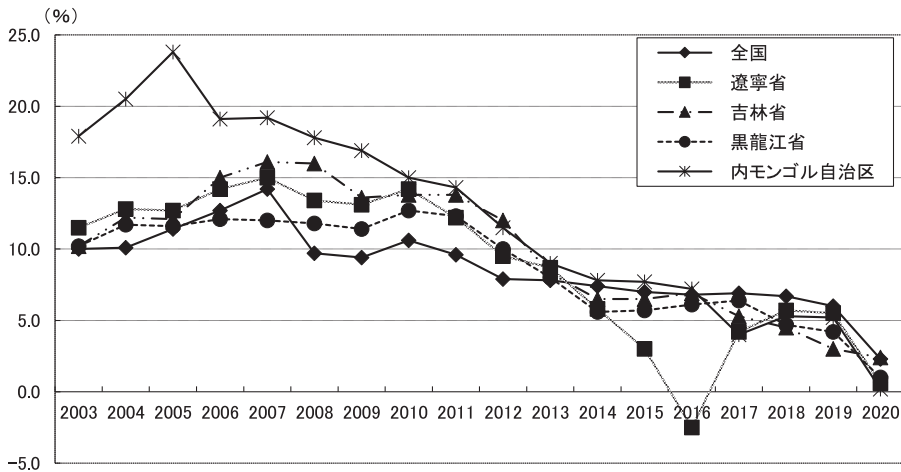
(出所) 中国国家统计局ホームページ(<http://data.stats.gov.cn>)、中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

図1-1-2 実質GDP成長率の推移と需要項目別寄与度



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

図1-1-3 全国と東北地域の実質経済成長率



(出所) 遼寧省統計局『2020年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2021年2月、吉林省統計局『吉林省2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年4月、黒龍江省統計局『2020年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2021年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年2月、各省・自治区『統計年鑑』2020年版、中国国家统计局ホームページ (<http://data.stats.gov.cn>) より作成

平均(2.3%)を下回っている。2020年、吉林省の経済成長率は2.4%で東北地域では最も高かった。2003年から2013年まで東北三省と内モンゴル自治区の域内総生産の平均成長率は、東北振興政策(東北旧工業基地振興戦略)の効果もあり全国平均を上回る数値で成長していたが、

2014年から次第に低下した（図1-1-3）。2020年に、新型コロナウイルス感染症の影響がもっとも深刻であった湖北省を除き、遼寧省、黒龍江省、内モンゴル自治区の域内総生産成長率は全国の他の省より低かった。

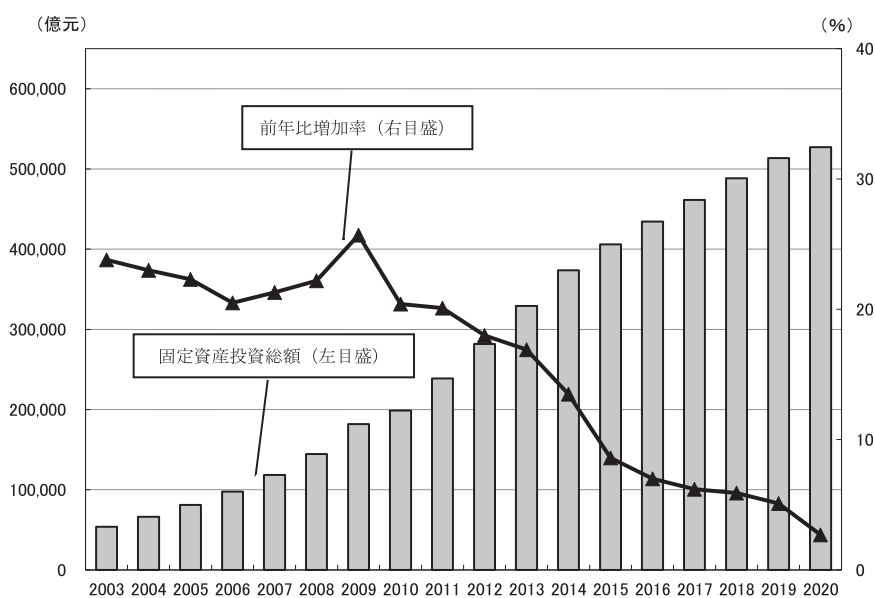
（2）投資

① 全国

中国の固定資産投資総額は毎年増加しているが、2015年から固定資産投資の増加率は1桁まで低下した（図1-1-4）。2020年に中国で実行された固定資産投資の総額は、名目値で前年比2.7%増の52兆7270億元であった。そのうち、農家を除く固定資産投資額は、前年比2.9%増の51兆8907億元であった。地区別にみると、東部地区は同3.8%増、中部地区は同0.7%増、西部地区は同4.4%増、東北地区は同4.3%増となる。

また、産業別にみると、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったため、2020年第二次産業の固定資産投資額の増加率はわずか0.1%であった。第一次産業と第三次産業の固定資産投資額はそれぞれ19.5%、3.6%伸びた。

図1-1-4 中国の固定資産投資総額および対前年比増減率



（出所）中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

（注）中国国家统计局は経済センサス、投資統計制度方法の改革などにより、2021年版の『中国統計摘要』で2003年以降の全国の固定資産投資総額および前年比増減率を修正している。そのため、『2020北東アジア経済データブック』の数値より小さくなった。

② 東北地域

2020年東北地域の固定資産投資額（農家を除く）をみると、遼寧省は前年比2.6%増、吉林省は同8.3%増、黒龍江省は同3.6%増、内モンゴル自治区は同1.5%減となっている。吉林省

は2019年の固定資産投資額の増加率はマイナス16.2%であったので2019年の基準値が低かったため、2020年の増加率は全国固定資産投資額の増加率（2.7%）より高い数値となっている。

表1-1-1 東北地域の固定資産投資額（農家を除く）・対前年比増加率（億元）

年	遼寧省	吉林省	黒龍江省	内モンゴル自治区
2009	12,292.5	6,411.6	5,028.8	7,336.8
2010	16,043.0	7,870.4	6,812.6	8,926.5
2011	17,726.3	7,441.7	7,475.4	10,365.2
2012	21,836.3	9,511.5	9,694.7	11,875.7
2013	25,107.7	9,979.3	11,453.1	14,217.4
2014	24,730.8	11,339.6	9,829.0	17,591.8
2015	17,917.9	12,705.3	10,182.9	13,702.2
2016	6,692.2	13,923.2	10,648.3	15,080.0
2017	6,676.7	13,283.9	11,292.0	14,013.2
固定資産投資額（農家を除く）増加率（%）				
2018	3.9	1.4	-4.7	-28.3
2019	0.3	-16.2	6.3	6.7
2020	2.6	8.3	3.6	-1.5

（出所）中国国家统计局『中国統計摘要』各年版

（注）①2010年以前は都市部固定資産投資額、2011年からは農家を除く固定資産投資額。②2021年版の『中国統計摘要』は経済センサス、投資統計制度方法の改革などにより、2003年以降の全国の固定資産投資総額および前年比増加率を修正している。各省の修正後の固定資産投資額が公表されていないため、2003-2017年の各省の固定資産投資額は2018年まで公表された数値である。そのため、全国と各省の固定資産投資総額の統計範囲は一致していない。また、2018年より、中国国家统计局は各省の固定資産投資総額を公表しなくなった。

各地区の産業別投資額の状況をみると、遼寧省は第一次産業の投資が前年比79.9%増、第二次産業が同5.1%減、第三次産業が同4.9%増となり、第一次産業の投資が大きく増加している²。吉林省は第一次産業の投資が同68.3%増、第二次産業が同9.0%増、第三次産業が同7.1%増となり³、黒龍江省は第一次産業の投資が同120%増、第二次産業が同0.8%減、第三次産業の投資が同1.7%増となった⁴。吉林省と黒龍江省は2019年の第一次産業への投資額はそれぞれ51.4%減、27.6%減だったので、2019年の数値は低かった。2020年の第一次産業の投資額伸び率は高い数値となった。

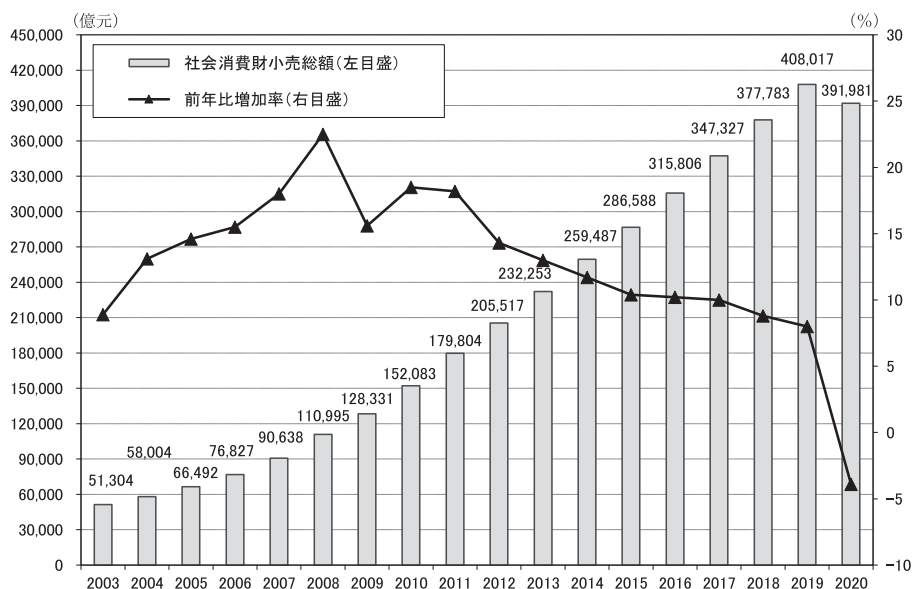
（3）消費

① 全国

2020年の中国における消費動向を示す指標である社会消費財小売総額（社会消費品小売総額）は、前年比3.9%減の39兆1981億元であった。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響で社会消費財小売総額は大きく減少した（図1-1-5）。

消費地別にみると、都市部の消費は同4.0%減の33兆9119億元、農村部の消費は同3.2%減の5兆2862億元である。消費形態別にみると、商品の小売総額は同2.3%減の35兆2453億元、飲食業売上総額は同16.6%減の3兆9527億元であり、飲食業は大きなダメージを受けた。

図1-1-5 中国の社会消費財小売総額および前年比名目伸び率



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

② 東北地域

2020年における東北三省の社会消費財小売総額は、遼寧省が前年比7.3%減の8960億9000万元、吉林省は同9.2%減の3823億9500万元、黒龍江省は同9.1%減となった。東北三省の社会消費財小売総額の増加率は全国平均増加率（3.9%減）を下回った。

2 産業・労働

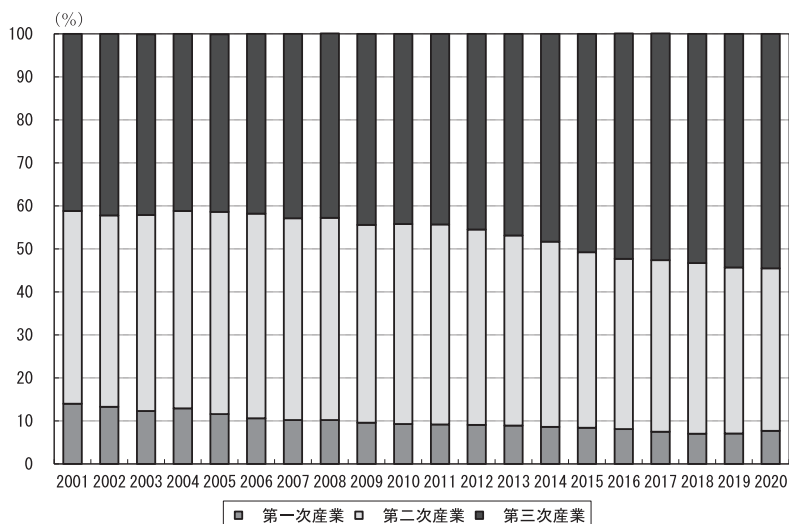
(1) 産業

① 全国

長期的にはGDP構成比から中国の産業構成をみると、1999年以降第一次産業の比率は減少し続け、第二次産業の比率は横ばい、第三次産業の比率は上昇していたが、近年は第一次産業の比率は横ばい、第二次産業の比率が低下し、その分第三次産業の比率が上昇しており、その傾向に変化はない。

2020年の名目GDPを産業別にみると、第一次産業は7兆7754億元（前年比3.0%増）、第二次産業は38兆4255億元（同2.6%増）、第三次産業は55兆3977億元（同2.1%増）であった。GDP全体に占める第一次産業の比率は前年より0.6ポイント高い7.7%となり、第二次産業の比率は前年より0.8ポイント低い37.8%となっていて、第三次産業の比率は前年より0.2ポイント高い54.5%である（図1-2-1）。各産業のそれぞれの成長率を組み合わせると、GDPにおける3つの産業のシェアの大きな変化は、ある程度新型コロナウイルス感染症による物価変動によって引き起こされる可能性が高いと推測された。一方、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、第二次産業と第三次産業の成長率は鈍化し、これも3つの産業のシェアに影響を及ぼした。

図1-2-1 GDP構成比からみた全国の産業構成



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

さらに、年間の全工業の生産額（付加価値ベース、以下同）は、31兆3071億元で、前年比2.4%増となった。一定規模以上の工業企業（年売上高2000万元以上の企業）の生産額は、前年より2.8%増え、そのうち国有及び政府過半出資企業は前年比2.2%増、株式制企業は同3.0%増、外資系および香港・マカオ・台湾系企業は同2.4%増、私営企業は同3.7%増であった。

一定規模以上の工業のうち、農産物・副産物食品工業の生産額は前年より1.5%減、繊維業は0.7%増、化学原料と化学製品製造業は3.4%増、非金属鉱物製品業は2.8%増、黑色金属冶金圧延加工業は6.7%増、汎用設備製造業は5.1%増、専用設備製造業は6.3%増、自動車製造業は6.6%増、電気機械・器材製造業は8.9%増、コンピュータ・通信その他電子設備製造業は7.7%増、電力熱生産と供給業は1.9%増となった。

主要原材料のうち、粗鋼生産は10億6477万トン（前年比7.0%増）、鋼材は13億2489万トン（同10.0%増）、セメントは24億トン（同2.5%増）であった。工業製品のうち、自動車生産台数は、2532.5万台（同1.4%減）、携帯端末は14億6962万台（同13.3%減）、パソコンは3億7800万台（同10.6%増）となった。米中貿易戦争の影響などによって、2018年以降に引き続き中国の自動車、携帯端末の生産量が減少している。

② 東北地域

2020年における遼寧省の名目地域内総生産（GRP）は2兆5115億元で、ほぼ東北三省全体の半分を占めている。産業構造を見ると、遼寧省は第一次産業の比率は9.1%であり、東北地域の中で最も低い。第二次産業の比率は37.4%で、内モンゴル自治区より低いものの、吉林省及び黒龍江省より高い。第三次産業の比率は53.5%であり、東北地域の中で最も高い。（表1-2-1）さらに、遼寧省の一定規模以上工業の付加価値は前年比1.8%増で、そのうち設備製造業の付加価値が前年比1.3%増で、一定規模以上工業の付加価値の29.5%を占めている。

表1-2-1 2020年全国および東北地域の産業構成比

	GDP・GRPからみた産業構成比 (%)		
	第一次産業	第二次産業	第三次産業
全 国	7.7	37.8	54.5
遼 寧 省	9.1	37.4	53.5
吉 林 省	12.6	35.1	52.3
黒 龍 江 省	25.1	25.4	49.5
内モンゴル自治区	11.7	39.6	48.8

(出所) 遼寧省統計局『2020年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2021年2月、吉林省統計局『吉林省2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年4月、黒龍江省統計局『2020年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2021年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年2月、中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

(注) 遼寧省は『統計摘要』のデータから構成比を算出した。

吉林省の2020年名目GRPは、1兆2311億3000万元であった。産業構成比は第一次産業が前年の11.0%から12.6%に上昇した。第二次産業比率は前年の35.3%から35.1%に下降し、第三次産業は前年の53.8%から52.3%に下降している。一定規模以上工業における付加価値は前年比6.9%増であったが、年間利潤額は前年比で10.5%減少した。一定規模以上の工業のうち、重点産業（自動車製造・石油化学工業・食品産業・情報産業・医薬品製造業・冶金建材産業・エネルギー産業・繊維業）の付加価値は前年より8.2%増であった。

2020年における黒龍江省の名目GRPは、1兆3698億5000万元に達し、第一次産業の構成比は、前年より上昇して25.1%、第二次産業の比率は下降し25.4%、第三次産業の比率も下降し49.5%となっている。一定規模以上の工業企業の生産は、前年比で3.3%増加しているものの、年間利潤額は前年比21.9%減少した。特に新エネルギー自動車の生産量が6.3%減、モリブデン精鉱の生産量が40.7%減と減少傾向を示す一方、銅金属が36.2%増、化学薬品原薬が79.5%増、飼料は20%増となっている。

2020年の内モンゴル自治区の名目GRPは1兆7359億8000万元に達した。第一次産業比率の過去10年間の推移は9～10%台だった、2018年以降徐々に上昇する傾向がある。特に、2020年における第一次産業の比率は11.7%となっている。第二次産業は前年と同じく39.6%で、第三次産業は前年の49.6%から48.8%に下降している。一定規模以上の工業企業の生産は、前年比0.7%増加している一方、年間利潤額は前年比10.9%減少した。業種別の付加価値を見ると、エネルギー産業は3.4%減、冶金建材産業は10.6%増、農畜産物加工産業は8.6%増、設備製造産業は38.1%増となっている。

(2) エネルギー

2020年における一次エネルギーの生産量は、標準炭換算で40億8000万トンであった。その構成比は石炭が67.6%、石油が6.8%で、天然ガスが6.0%、その他エネルギーが19.6%であった。一方でエネルギーの消費量をみると49億8000万トンとなり、構成比は石炭が56.8%、石油が18.9%、天然ガスが8.4%、その他エネルギーが15.9%であった。1992年から中国のエネルギー需要は供給を上回り、急速な経済発展に伴って需給のギャップが広がる一方となっている。それ以外には、化石燃料の構成比が低下傾向にあり、それに伴い再生可能エネルギーなどを含むその他エネルギーの割合が増加していることが特徴的である（表1-2-2）。

表1-2-2 中国のエネルギー生産量と消費量

年	生産量 (標準炭万吨)	構成比 (%)				消費量 (標準炭万吨)	構成比 (%)			
		石炭	石油	天然ガス	その他 エネルギー		石炭	石油	天然ガス	その他 エネルギー
1996	133,032	75.0	16.9	2.0	6.1	135,192	73.5	18.7	1.8	6.0
1997	133,460	74.2	17.2	2.1	6.5	135,909	71.4	20.4	1.8	6.4
1998	129,834	73.3	17.7	2.2	6.8	136,184	70.9	20.8	1.8	6.5
1999	131,935	73.9	17.3	2.5	6.3	140,569	70.6	21.5	2.0	5.9
2000	138,570	72.9	16.8	2.6	7.7	146,964	68.5	22.0	2.2	7.3
2001	147,425	72.6	15.9	2.7	8.8	155,547	68.0	21.2	2.4	8.4
2002	156,277	73.1	15.3	2.8	8.8	169,577	68.5	21.0	2.3	8.2
2003	178,299	75.7	13.6	2.6	8.1	197,083	70.2	20.1	2.3	7.4
2004	206,108	76.7	12.2	2.7	8.4	230,281	70.2	19.9	2.3	7.6
2005	229,037	77.4	11.3	2.9	8.4	261,369	72.4	17.8	2.4	7.4
2006	244,763	77.5	10.8	3.2	8.5	286,467	72.4	17.5	2.7	7.4
2007	264,173	77.8	10.1	3.5	8.6	311,442	72.5	17.0	3.0	7.5
2008	277,419	76.8	9.8	3.9	9.5	320,611	71.5	16.7	3.4	8.4
2009	286,092	76.8	9.4	4.0	9.8	336,126	71.6	16.4	3.5	8.5
2010	312,125	76.2	9.3	4.1	10.4	360,648	69.2	17.4	4.0	9.4
2011	340,178	77.8	8.5	4.1	9.6	387,043	70.2	16.8	4.6	8.4
2012	351,041	76.2	8.5	4.1	11.2	402,138	68.5	17.0	4.8	9.7
2013	358,784	75.4	8.4	4.4	11.8	416,913	67.4	17.1	5.3	10.2
2014	362,212	73.5	8.3	4.7	13.3	428,334	65.8	17.3	5.6	11.3
2015	362,193	72.2	8.5	4.8	14.5	434,113	63.8	18.4	5.8	12.0
2016	345,954	69.8	8.3	5.2	16.7	441,492	62.2	18.7	6.1	13.0
2017	358,867	69.6	7.6	5.4	17.4	455,827	60.6	18.9	6.9	13.6
2018	378,859	69.2	7.2	5.4	18.2	471,925	59.0	18.9	7.6	14.5
2019	397,317	68.5	6.9	5.6	19.0	487,488	57.7	19.0	8.0	15.3
2020	408,000	67.6	6.8	6.0	19.6	498,000	56.8	18.9	8.4	15.9

(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

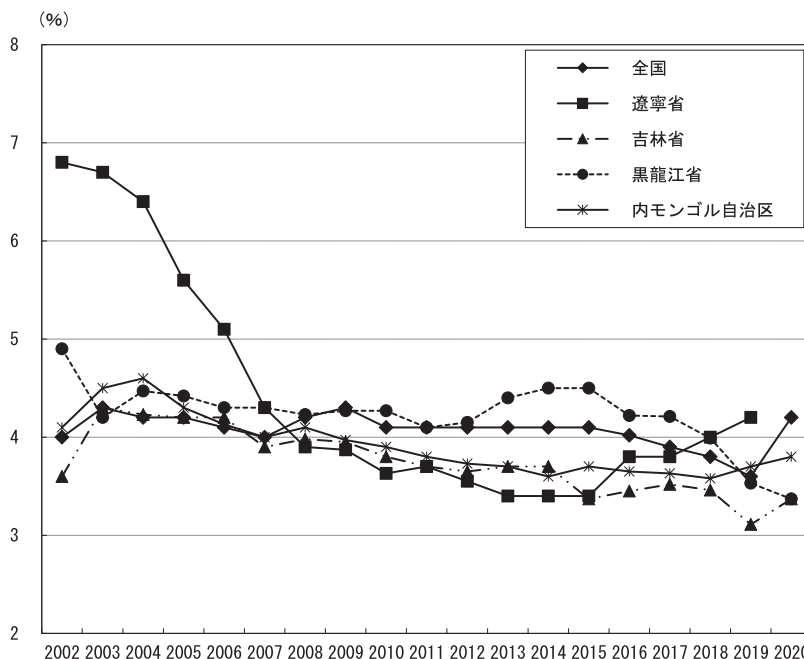
(3) 労働

2020年末の全国の就業者数は7億5064万人で、うち都市の就業者数は4億6271万人であり、農村の就業者数は2億8793万人であった。2020年における就業者の構成比を産業別にみると、第一次産業の就業者数は1億7715万人で、構成比は23.6%と前年の24.7%から低下し続けた。第二次産業の就業者数は2億1543万人で、構成比が28.7%と前年の28.2%よりは上昇している。第三次産業の就業者数は3億5806万人で構成比が47.7%と前年の47.1%から拡大を続けている。

失業情勢については、2020年末の都市部の登録失業者数が1160万人で、都市部登録失業率は4.2%と前年の3.6%よりは0.6ポイント増加した(図1-2-2)。2018年末から全国都市調査失業率も新たに発表されるようになり、2020年における中国都市調査失業率は5.2%であった。調査失業率は全都市の常住経済活動人口に占める失業条件に合致した人口の比率で、登録していない失業者も統計に含めた数字となっており、登録ベースの登録失業率より実態を反映したものとなっている。ただし、調査失業率も農村部の失業者は含まれておらず、都市・農村部すべてを含めた実質失業率は依然として、公表されている指標を大きく上回るものと推測される。

さらに、図1-2-2を示すように、東北地域における遼寧省の都市部登録失業率は最も高いことがわかる。黒龍江省を除いて、他の3つの省の失業率は過去10年間で減少傾向を示している。2020年には、新型コロナウイルスの影響により、東北地域の失業率はわずかに上昇したが、ほとんど変化はないと言える。2020年、吉林省の都市部登録失業率は3.4%と前年の3.1%より0.3ポイント増加、黒龍江省は3.4%と前年の3.5%より0.1ポイント減少、内モンゴル自治区は3.8%と前年の3.7%より0.1ポイント増加となっている。

図1-2-2 全国および東北地域の都市部失業率



(出所) 各省・自治区『統計年鑑』各年版、中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版、遼寧省統計局『2020年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2021年2月、吉林省統計局『吉林省2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年4月、黒龍江省統計局『2020年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2021年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年2月より作成

3 対外経済関係

(1) 対外貿易

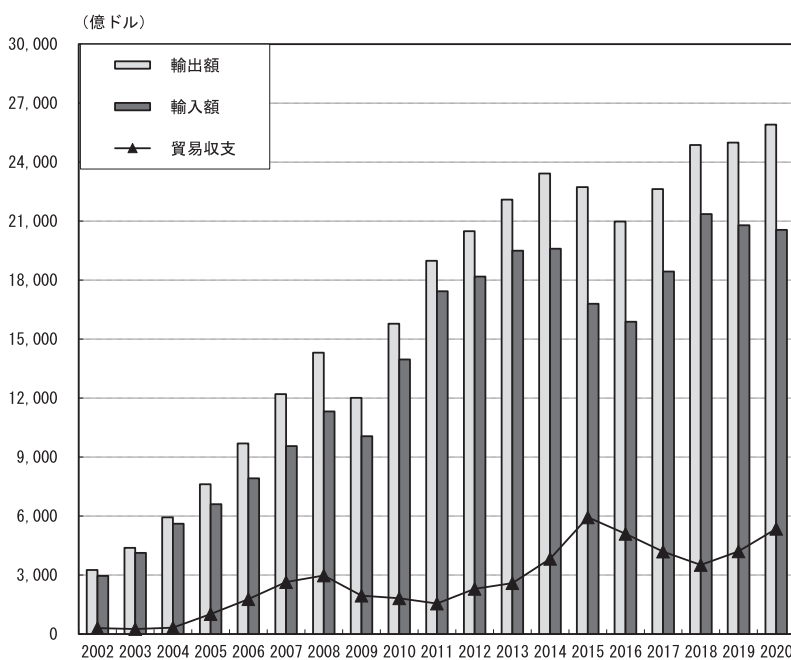
① 全国

2020年における中国の対外貿易総額は前年比1.5%増の4兆6462億6000万ドルとなった。そのうち、輸出が同3.6%増の2兆5906億5000万ドル、輸入が同1.1%減の2兆556億ドルであった。貿易収支は5350億3000万ドルの黒字で前年比26.9%の増加となった(図1-3-1)。

2020年における貿易総額は、ASEANとの取引が最も多かった。貿易総額は6.7%増6846億ドルで、そのうち輸出は同6.7%増の3837億ドル、輸入は同6.6%増の3009億ドルであった。

第2位は前年第1位であったEUで、貿易総額は4.9%増の6495億ドル、うち輸出は前年比6.7%増の3910億ドル、輸入は同2.3%増の2586億ドルであった。第3位は米国で、貿易額は8.3%増の5867億ドル、うち輸出は同7.9%増の4518億ドル、輸入は同9.8%増の1349億ドルであった。第4位は日本で、貿易総額は同0.8%増の3175億ドル、輸出は同0.4%減の1427億ドルで、輸入は同1.8%増の1749億ドルであった。第5位はラテンアメリカで、貿易総額が同0.3%減の3166億ドル、輸出は同0.8%減の1508億ドル、輸入は同0.1%増の1659億ドルとなった。第6位は韓国で2853億ドル、そのうち輸出は同1.4%増の1125億ドル、輸入は0.5%減の1728億ドルであった⁵。

図1-3-1 中国の直接投資受入額（実行ベース）の推移



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

② 東北地域

2020年の東北三省と内モンゴル自治区の輸出入総額は1502億ドルとなった(表1-3-1)。東北三省と内モンゴル自治区が全国の輸出入額に占める比率は、2020年は3.2%となり、前年より0.5ポイント下がっている。

表1-3-1 東北三省および内モンゴル自治区の輸出入額の推移 (億ドル)

年	遼寧省			吉林省			黒龍江省			内モンゴル自治区		
	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支
2001	111.1	88.0	23.1	14.6	16.7	▲2.1	16.1	17.7	▲1.6	11.4	14.1	▲2.7
2002	123.7	93.7	29.9	17.7	19.3	▲1.7	19.9	23.6	▲3.7	13.7	16.3	▲2.6
2003	146.3	119.3	27.0	21.6	40.1	▲18.5	28.7	24.6	4.2	14.4	16.7	▲2.3
2004	189.2	155.2	34.0	17.2	50.8	▲33.6	36.8	31.1	5.7	16.8	23.7	▲6.9
2005	234.3	175.7	58.6	24.7	40.6	▲15.9	60.7	35.0	25.7	20.6	31.0	▲10.4
2006	283.2	200.7	82.5	30.0	49.2	▲19.2	84.4	44.2	40.2	21.4	38.2	▲16.8
2007	353.2	241.5	111.7	38.6	64.4	▲25.8	122.6	50.4	72.2	29.5	48.0	▲18.5
2008	420.7	303.6	117.1	47.7	85.6	▲37.9	168.1	63.2	104.8	35.9	53.3	▲17.3
2009	334.1	295.2	39.0	31.2	86.2	▲54.9	100.8	61.5	39.3	23.2	44.6	▲21.4
2010	431.0	376.1	54.9	44.8	123.7	▲78.9	162.8	92.3	70.5	33.3	54.0	▲20.6
2011	510.4	449.9	60.5	50.0	170.6	▲120.7	176.7	208.5	▲31.8	46.9	72.4	▲25.6
2012	579.6	461.3	118.3	59.8	185.8	▲126.0	144.4	231.6	▲87.2	39.7	72.9	▲33.2
2013	645.2	499.6	145.6	67.4	190.9	▲123.5	162.3	226.5	▲64.2	40.9	79.0	▲38.1
2014	587.5	552.5	35.0	57.8	206.0	▲148.2	173.4	215.7	▲42.3	63.9	81.6	▲17.7
2015	507.1	452.4	54.7	46.1	142.6	▲96.5	80.4	129.8	▲49.4	56.5	70.8	▲14.3
2016	430.6	434.9	▲4.3	42.0	142.5	▲100.5	50.4	115.0	▲64.6	44.0	72.4	▲28.4
2017	449.0	545.5	▲96.5	44.3	141.1	▲96.8	51.4	136.7	▲85.3	49.4	89.6	▲40.2
2018	487.9	658.1	▲170.2	49.4	157.3	▲107.9	44.5	219.9	▲175.4	57.5	99.4	▲41.9
2019	454.4	598.8	▲144.4	47.0	142.0	▲95.0	50.7	220.4	▲169.7	57.7	104.7	▲47.0
2020	383.3	561.3	▲178.0	42.0	142.9	▲100.9	52.0	169.9	▲117.9	50.4	100.2	▲49.8

(出所) 各省・自治区『統計年鑑』各年版、中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

<遼寧省>

2020年の遼寧省の対外貿易は、輸出入総額が前年比10.3%減の944億6000万ドルで、そのうち輸出が同15.6%減の383億3000万ドル、輸入総額が同6.3%減の561億3000万ドルであった。さらに、貿易方式を見ると、輸出総額に占める一般貿易の割合は55.7%、加工貿易は39.8%であった。輸入総額に占める一般貿易の割合は69.2%、加工貿易は11.1%であった⁶。

輸出はアジア向けが全体の61.67%を占めており、日本向けの輸出は全輸出の21.1%で、韓国向けは8.9%であった。欧州向けの輸出は全輸出額の16.8%を占めており、EUへの輸出は全輸出の12.4%、ロシアへの輸出は2.4%であった。北米向けの輸出は全輸出の11.5%で、米国への輸出は10%であった。ラテンアメリカへの輸出は全輸出の5.8%、アフリカへの輸出は全輸出の2.5%であった⁷。

<吉林省>

2020年の吉林省の輸出入総額は184億9000万ドルで、前年に比べて2.2%減となった。そのうち輸出は同10.6%減で42億ドル、輸入は同0.6%増の142億9000万ドルとなった。貿易方式で見ると、一般貿易が貿易総額の90.2%、加工貿易が貿易総額の7.6%である⁸。

<黒龍江省>

2020年の黒龍江省の輸出入総額は、前年比18.1%減の222億ドル、そのうち輸出が2.5%増の52億ドル、輸入が同22.9%減の169億9000万ドルであった。貿易方式で見ると、貿易総額に占める一般貿易の割合は78.5%、国境少額貿易が11.9%、加工貿易が5.4%であった。さらに、輸出品目を見ると、機械・電気製品は前年比7.6%増加し、黒龍江省の輸出総額の43.6%を占めている。ハイテク製品の輸出は前年比69.4%増、輸出総額の14.6%を占めている。貿易主体をみると、国有企業の輸出入総額は前年比28.3%減、民営企業は2.9%増、外資企業は8.0%減となった⁹。

<内モンゴル自治区>

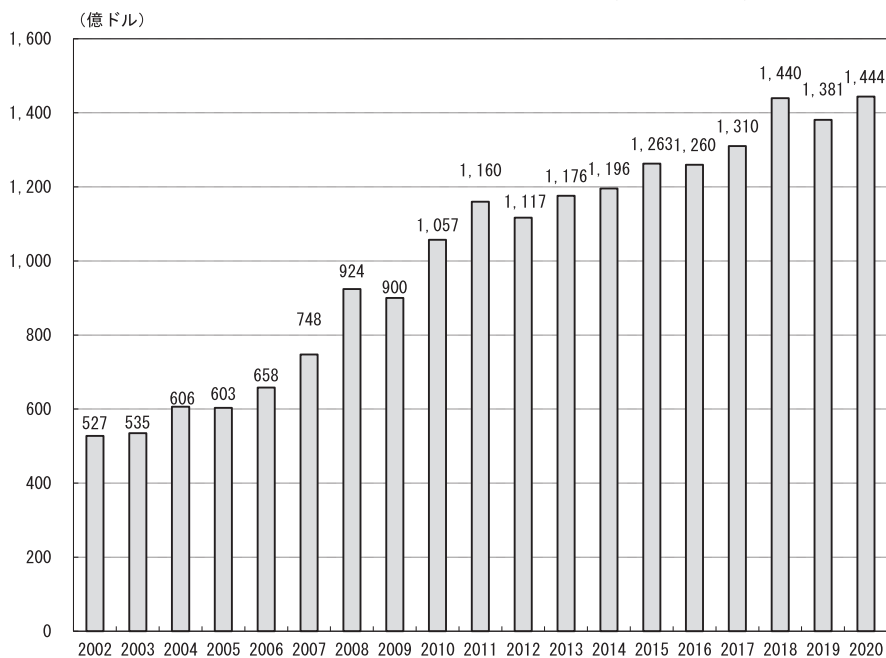
2020年の内モンゴル自治区の輸出入総額は、前年比5.5%減の150億7000万ドルで、そのうち輸出が、同7.7%減の50億4000万ドル、輸入が同4.3%減の100億2000万ドルであった。貿易総額に占める一般貿易の割合は65.2%、国境少額貿易の割合が23.1%、加工貿易の割合は1.8%であった¹⁰。

(2) 外国投資

① 全国

2020年に中国が受け入れた外国直接投資（金融分野以外）の新規認可件数は、対前年比5.7%減の3万8570件で、外国直接投資受入額（実行ベース）は同4.5%増の1444億ドルとなった（図1-3-2）。そのうち「一帯一路」沿線国家の外国直接投資新規認可件数は、4294件で、23.2%

図1-3-2 中国の直接投資受入額の推移（実行ベース）



(出所) 中国国家统计局『中国統計摘要』2021年版より作成

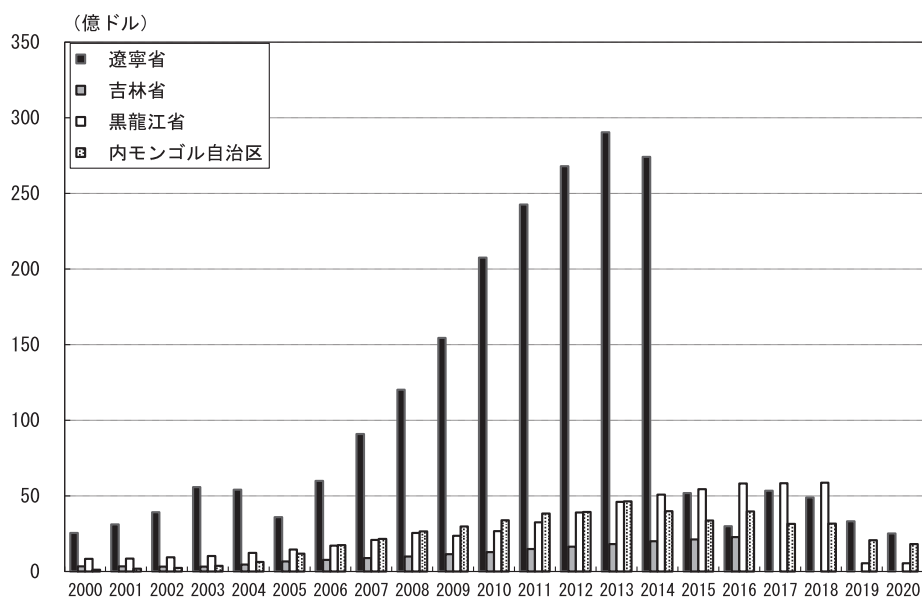
の減少となり、投資額は83億ドルで、同1.8%減となっている。最も対中投資の多い国・地域を投資額順で見ると、香港が圧倒的に多く、シンガポール、イギリス領バージニア諸島が50億ドル以上、韓国、日本、ケイマン諸島、米国、ドイツの順に続く。

他方、2020年の中国による対外直接投資（金融分野以外）は対前年比0.4%減の1102億ドルであり、対中直接投資額を下回っている。前年増加していた「一帯一路」沿線国家で達成した対外直接投資額は178億ドルで、対前年比18.3%増となっている。業種別では、製造業が対前年比0.5%減の199億7000万ドル、不動産が同43.4%減の27億3000万ドル、リース・商業・サービス業は同17.5%増の417億9000万ドル、卸売・小売業は同27.8%増の160億7000万ドル、交通運輸・倉庫・郵政業が同52.3%減の26億5000万ドル、情報メディア・コンピュータサービス・ソフトウェアが同9.6%増の67億1000万ドル、電力・天然ガス・水生産供給業が同10.3%増の27億8000万ドルであった¹¹。

② 東北地域

遼寧省の2020年の実行ベース外資利用額は25億2000万ドルであった。そのうちの第一次産業への投資は67.3%減の400万ドル、第二次産業は1.8%減の9億6000万ドル、第三次産業は

図1-3-3 東北三省および内モンゴル自治区の直接投資受入額の推移（実行ベース）



(出所) 中国国家統計局『中国統計摘要』2021年版、各省・自治区『統計年鑑』各年版、遼寧省統計局『2020年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2021年2月、黒龍江省統計局『2020年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2021年3月、内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年2月より作成

(注) 2017年以降、吉林省の直接投資受入額を公表していない。黒龍江省の2020年の直接投資受入額の数値はまだ公表されていないため、2020年の実行ベース外資利用額を使用した。2018年以降、内モンゴル自治区の直接投資受入額の数値も公表されていないので、当該期間の実行ベース外資利用額を使用した。

25%増の15億5000万ドルであった。吉林省は2020年間の実行ベース外資利用額は前年比9.4%（人民元建て）増であった。黒龍江省の実行ベース外資利用額は5億4000万ドルで、前年比0.2%増であった。そのうち第一次産業は84.3%減の103万ドル、第二次産業は12.7%増の3億2410万ドル、第三次産業は12%減の2億1921万ドルであった。内モンゴル自治区の実行ベース外資利用額は18億2000万ドル、前年比11.6%減となった。

¹ 中国国家統計局『中華人民共和国2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年2月より。

² 遼寧省統計局『2020年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』2021年2月より。

³ 吉林省統計局『吉林省2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年4月より。

⁴ 黒龍江省統計局『2020年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』2021年3月より。

⁵ 海関総署『2020年12月進出口商品国別（地区）総値表（美元値）』より。

<http://english.customs.gov.cn/Statics/52e8f737-eea9-4e74-ba62-b4ccbfb9bdfa.html>
(2021年10月28日最終確認)

⁶ 中国統計摘要2021年版、及び遼寧省統計局『2020年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』より。

⁷ 中国統計摘要2021年版、及び遼寧省統計局『2020年遼寧省国民経済・社会発展統計公報』より。

⁸ 吉林省統計局『吉林省2020年国民経済・社会発展統計公報』より。

⁹ 黒龍江省統計局『2020年黒龍江省国民経済・社会発展統計公報』より。

¹⁰ 内モンゴル自治区統計局『内モンゴル自治区2020年国民経済・社会発展統計公報』2021年2月より。

¹¹ 国家統計局『中華人民共和国2020年国民経済和社会発展統計公報』2021年2月28日。

（調査研究部研究主任 李春霞

調査研究部研究員 董琪）